

**地区名： 下庄地区**

**実施主体： 下庄をよくする会**

### 1 基本データ

- 地区人口 8,393人 (R2.4.1現在)
- 世帯数 2,893世帯
- 行政区数 32行政区
- 面積 約19.1平方キロメートル
- 地区の沿革

下庄地区は大野市の北西部に位置し、勝山市に隣接している。昭和29年に2町6ヵ村が合併して大野市が誕生した時に、下庄町も大野市に編入された。

下庄地区は、大野盆地の北西部に位置し、勝山市に隣接している。昭和29年に2町6ヵ村が合併して大野市が誕生した時に、下庄町も大野市に編入された。ほとんどを平坦部で占め、東は真名川を境にして富田地区と、南東部は上庄地区と、南西部は大野地区と、西は乾側地区と、北は勝山市と接している。地区の東側に真名川が流れ、中央に清滝川、木瓜川、西側に赤根川が流れ地域境で合流して九頭竜川に注いでいる。水田を中心とした農業が盛んな地域で、集落と住宅地・商工業地域が混在している。奥越地区全体から見ると中心地区として県や国の出先機関が集中している。

平成25年に中部縦貫自動車道の大野ICが設置され、国道157号（東縦貫線）と合わせて交通の便が良くなっている。

郊外は家屋が新築され若い世代が増えている一方で、農村や市街地は高齢化が進み、子ども育成会が休会し、空き家・空き地が増えている。

- 実施主体 下庄をよくする会

### 2 現状と課題

下庄をよくする会では、昭和54年の発足以来住民主体のまちづくりに努めてきた。特に10月の下庄まつりと2月のまごころそばサービス（地区内の一人暮らし、二人暮らしの高齢者宅に手打ちそばを届ける）は地区民に浸透し、地区民の交流促進、地区の活性化、冬季間の高齢者世帯の見守りに大きな成果を上げていた。しかし新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度両行事とも開催を見合わせた。

今年度実施した新たな事業は、学校休校中に募集した子ども川柳（文化部）、休耕田でのサツマイモ作り（しもプロ）であった。

課題は、コロナ禍での地域活動、下庄をよくする会の後継者育成である。

### 3 事業の内容

#### 【名所・史跡活用事業】

①名所・史跡を巡るスタンプ&クイズラリー  
夏休みに子ども対象に区内を巡って名所や史跡に触れ、故郷への愛着と誇りを養うことを目的に実施、57名が提出、全問正解者は10名。後述の「一本木」「不動明王」も巡る地点に含まれる。



中野清水に設置されたスタンプの入っている木箱。蓋の裏面に問題が記載されている。

## ②名所の整備

カタクリで有名な矢ばなの里の崩れかかった登山道を修復し、新しいモニュメント「絆の鐘」を設置した。



## ③ふるさと教育の推進

下庄史跡めぐり踊り会が8月3日・8月24日下庄地区の唄「ふるさと「下庄」巡り旅」の踊り講習会を開催した。

ふるさと下庄カルタを増刷し、地区内の小学校・児童館に配付した。

3月11日には老人クラブの一つ清滝クラブの総会に出向き、名所・史跡の冊子等を用いてこれまでの活動を話し、踊りを披露した。



### 【下庄青空市事業】

#### ① 園芸教室の開催（6月～12月：7回開催）

昨年の園芸教室をより実践に近づけ、公民館の近くに畑を借りて実施した。参加者に青空市に出品できるかアンケートを取った。

- 6月15日 夏野菜の仕立て方
- 7月17日 ネギ植付、ホウレンソウ播種  
ジャガイモの収穫
- 8月20日 畝づくり、キャベツ植付、ブロッコリー苗とネギの管理
- 9月10日 防虫の仕方、大根播き  
白菜スグリ  
菜園巡回指導（参加者菜園）
- 10月13日 あわら市視察  
（園芸カレッジ・サツマイモ農家ほか）
- 10月27日 菜園巡回指導（参加者菜園）
- 11月24日 大根、白菜、キャベツの収穫
- 12月6日 菜園巡回指導（参加者菜園）
- 12月22日 不特定多数に販売する野菜について、農薬や除草剤散布の注意点  
旬の野菜を使った料理教室も2回実施した。
- 12月3日 冬野菜を使った料理教室
- 3月24日 春野菜を使った料理教室



【人づくり事業：「しもプロ」の取り組み】

① 木瓜川クリーン作戦

8月1日(土)・2日(日)

ダックレース会場(出発点となる三角公園北側の橋(陽明町二丁目)からフォレストタウン(東中野)まで)の木瓜川流域で、ゴミ拾いや前日刈った草の始末を行った。陽明中学校生徒にも声をかけ18名の中学生と一般ボランティア20名が加わってよくする会のメンバーを含め56名が参加し、河川敷を清掃した。



② 木瓜川ダックレース 8月9日(日)

運営側45名(内中学生18名)、観覧は約150名。晴天の中、3年ぶりに実施され、大勢の家族連れで賑わった。



③ 休耕田農業体験

親子対象の農業体験について事業化を検討。どのような作業工程があるのか、しもプロ会員の休耕田を借り、令和2年は会員自身が体験することになった。

5月16日 畝づくり

6月6日 サツマイモの苗植え

10月3日 サツマイモの収穫

サルなどの被害により、収穫は少なかった。

10月18日 七間楽市出店



④ ロケットストーブを作ろう

11月28日(土) 下庄公民館ロビーと青空市の車庫で親子を対象に実施した。しもプロの会員が講師となり、アウトドアや災害時に使えるロケットストーブを作った。4名が参加した。



⑤ 雪像づくり 2月6日(土)

公民館前にコロナ収束を願い、アヒル顔のアビエの雪像を作った。



## 【まちづくり活動に対する意識啓発】

### ①まちづくりシンポジウム 1月21日（木）

「相続を争族としないために」

講師 青木行政書士事務所 青木克博氏

15名が参加した。地域では空き家問題が課題となってきた。終活は空き家になることを防ぐ手段である。どのようなことが相続の手続を煩雑にしているのか、土地や家屋、保険、最近では携帯など、自分が契約しているものを整理して、家族にわかるようにしておく必要があることを学んだ。遺言状も法的に効力を持たすために必要な条件があることを学んだ。



### ②下庄をよくする会の各部会事業

○環境部では花壇コンクールを行った（11区12団体が参加）。7月19日に審査を行い、夏休みに各花壇の写真を公民館ロビーに展示した。



○厚生部ではストレッチ教室（9名参加）を行い、一人一人の体の悩みについて講師からアドバイスを受けた。



### ③自治会活性化事業

当初は9区が活用を検討していたが、イベントはほとんど実施できなくなり、結果6区が自治会の活動に交付金を活用し、住民のコミュニティの強化につなげた。

事業の目的別に、次のア～エまでの大きく4つに分けられる。

#### ア 維持・管理の負担軽減

（実施行政区）中挾合同3区

（実施内容）中挾三区（中挾一丁目・二丁目・三丁目）が合同で利用している集会所横の駐車場は舗装されていないため、雑草が生え定期的な草取りが必要であった。白線がないため駐車位置が定まらず後続車が入れないなどの弊害も生じていたため、材料を調達し、6月2日・3日に機械を借りて役員を含め10数名で舗装工事を行った。住民が集会場を気軽に利用できる環境が整った。

（実施行政区）庄林区

（実施内容）庄林区には下庄の名所史跡の一つ「一本木」があり、その大木の枝が近隣住宅にせり出し、非常に危険で迷惑をかけている状態であったため、枝打ちと剪定作業を実施した。9月6日に役員4名・業者3名（高所の作業）で実施した。実施した結果景観もよ

くなり、台風による枝の落下や倒木による被害の発生の心配もなくなった。

#### (実施行政区) 大矢戸区

(実施内容) 大矢戸区の集落センター前にあるゴミステーションは浄化槽の上であり不安定であったため、センター横の庭園を撤去しその場所に移設した。11月22日に庭園を撤去し、コンクリート舗装、ゴミステーションを移動した。重機を借り、住民5名が参加して実施した。11月25日と26日に住民1名がゴミステーションの再塗装を行った。ゴミステーションが安定したため、中に入って清掃が安心して行えるようになった。また集落センター前が広がったため除雪作業も楽になった。



#### イ 地域住民の協働による地域づくり

##### (実施行政区) 矢区

(実施内容) 区内のかたくりまつりを盛り上げるため、かたくりまつりの案内看板を作成し5月1日に設置した。「かたくりの里と花のある矢村」のイメージ定着を図るため、花の苗を作り、プランターに移植して区内を通る広域農道沿いや市道沿いに設置した。5月4日、区民の女性を中心に多くの人に集まってもらい、作業を実施した。普段顔を合わせる機会がない中

で区民の交流もできた。今後も花づくり活動を通じて区民のコミュニケーションを活性化し、区を盛り上げていきたい。

#### ウ 年中行事のグレードアップ

##### (実施行政区) 陽明町一丁目1区

(実施内容) 毎年地区で実施している「不動明王祭」が平成31年3月に「おおの遺産」に認定されたことを機に、後世に伝承していくため、資料や祭り備品の保管庫を整備した。また祭で使用する備品（ラジカセとマイクスタンド）を購入した。祭の備品が一カ所で補完できるようになり、準備や片付けが容易になった。また音響設備を整備したことで祭に賑わいをもたらし、広がりにつながった。区民の気持ちに張りができ、区内の大切な行事をより一層守り続けたいという決意につながった。



#### エ 地域住民のコミュニティ強化

##### (実施行政区) 横枕区

(実施内容) 12月15日、地域の伝承料理講習会と人権講習会（認知症・介護関係）を行った。区内の料理の好きな高齢の方と魚市場に勤めていた方が講師になり、住民25名が煮物や刺身の作り方を学んだ後、大谷恵子先生ほかの方々により寸劇を交えた人権講習を受講した。コロナ禍で計画通りに集まれなか

ったが、感染予防対策を十分に行いやっと集まることができた。

#### 4 事業の成果

年度当初は、新型コロナウイルスの研究がまだ進んでいなかったため、3月から5月の学校閉鎖や夏休み短縮など、社会全体が人との交わりを断ち、子どもや若者が集まることを企画することができなかった。6月以降も例年とは違い、屋内のイベント事業のほとんどは中止や縮小となった。屋外の行事やハードの充足は、感染予防策を考えながら、実施することができた。

##### 【名所・史跡活用事業】

名所史跡をめぐるクイズ&スタンプラリーでは、児童とその家族が楽しみながら名所・史跡への理解を深めることができた。

名所矢はなの里の整備事業では、来訪者が安全にカタクリを鑑賞することができるようになった。

##### 【下庄青空市事業】

園芸教室で商品作物の作り方を学習し、来年度は下庄青空市の再開に一步前進した。

##### 【人づくり事業】

しもプロの主要事業「木瓜川クリーンアップ作戦とダックレース」を継続して実施することができた。農業体験事業では作業の大変さを知り、どの工程に多くの人手が必要かを整理することができた。一般の方の参加募集に向けて準備をしたい。

##### 【まちづくり事業】

自治会活性化事業では、集会場の駐車場舗装（中挾）やゴミステーションの改善（大矢戸）により住民の利便性を高めることができた。横枕区では地域の高齢者の活躍の場を作ることができた。矢と庄林では名所の景観美化につながった。陽明町一丁目1区では地元につながる不動明王祭に対する住民の意識を高めることができた。

#### 5 今後の展望

来年度も今年度と同様新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、地域活動を実施していくことで地域コミュニティの強化を図る。

##### 【地区内の名所・史跡の活用】

地域に出て学びの場を提供（出前講座）し、小学生の史跡めぐりを継続して行い（スタンプ&クイズラリー）、楽しく名所史跡を知れるよう「下庄ふるさとかるた」大会の開催や史跡現地をめぐる講座を開催したい。

##### 【直売所「下庄青空市」の再開】

園芸教室参加者に対する青空市再開に向けてのアンケートでは、半数の方が参加の意欲を見せてくれた。来年度の再開に向けて準備を進めていきたい。

##### 【「しもプロ」の事業支援】

「しもプロ」の活動で地域に根付いてきた木瓜川での事業について引き続き支援していきたい。今年初めて取り組んだ休耕田を利用した農業体験は獣害の影響があったため、来年度は場所を変えて実施しようと計画している。多くの方が交流できるようなものにしていきたい。今年度夏休みが短く実施できなかったロケットストーブ作り活かしたもの（自然体験や防災キャンプ）を計画し、若者を集めたい。

##### 【まちづくり事業】

下庄をよくする会は5部会（環境・文化・産業・厚生・広報）と地区推進員会があり、各部等で引き続き地域を明るくする事業を展開していく。

各区（自治会）において地域力を高める活動を行う区に対し、資金的な支援をしたい。